DigeYST システム構成図

OKIのCrosCore Ver.7.0以上で、録音のFTP外部保存に対応する主装置が標準接続先です。

標準構成　CrosCoreとDigeYSTを同じネットワークに設置



CrosCore 主装置
対象のボイスメールに録音
録音の原本を保持

FTP転送（PASV）
→
録音のコピーを送信



DigeYST
指定の固定IPで受信
機器内で文字起こし・要約

Webアクセス
←
許可されたPCから接続



利用者PC
ブラウザーで通話記録を閲覧
保存期間内の音声を再生

ネットワークを分ける場合の通信条件

通信を開始する機器 → 接続先	用途	接続先のポート
CrosCore → DigeYST	録音のFTP転送（PASV）	TCP 21（制御）と設定されたパッシブモード用の範囲（例：TCP 60000〜60100）
DigeYST → CrosCore	発信者番号・電話帳の照会を使う場合	CrosCoreのWeb管理画面のポート（通常はHTTPのTCP 80）
利用者PC → DigeYST	通話記録の閲覧・音声再生	納品時に案内するWeb画面のポート（例：HTTPのTCP 3000、HTTPSのTCP 443）

別のVLANやサブネットでは、販売店とネットワーク管理者が通信経路とファイアウォールの許可範囲を確認します。PASV応答で示されるIPアドレスとポートへの到達を含め、稼働前に実機で確認します。閲覧PCを含めた専用の独立ネットワークもご相談いただけます。

複数拠点の標準構成　CrosCoreの主装置1式につきDigeYST 1台

2拠点で同じ主装置を共用
主装置1式・DigeYST 1台。各拠点の対象通話を、共用する主装置で録音・転送できることを確認します。

2拠点に独立した主装置
主装置2式・DigeYST 2台。主装置ごとに1台を設置します。複数の主装置から1台への集約は標準対応の対象外です。

導入時の確認

1. **設置先の通信設定**
   固定IP・サブネットマスクを設定し、必要に応じてゲートウェイと経路を確認。
2. **録音転送を設定**
   受信準備・取込開始日を確認してから設定を保存。既設の転送先があれば事前に販売店へ相談。通常は「実行」ボタンを使用しません。
3. **新規の試験通話**
   録音・FTP転送、文字起こし・要約、利用者PCでの表示と音声再生を確認。

録音の取り込み・文字起こし・要約にインターネット接続は不要です。外部サービス連携を設定した場合は、通話記録を連携先へ送信します。
詳細は 公開FAQ Q01〜Q06・製品仕様書 6章 をご覧ください。

2026年11月26日改訂